



平成 24 年 2 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社アイ・エス・ビー
代表者名 代表取締役社長 若尾 逸雄
(コード番号 9702 東証第二部)
問合せ先 常務取締役管理本部長 太田 道也
(TEL. 03-3490-1761)

業績予想数値と実績数値の差異 繰延税金資産の取り崩しおよび、特別損失計上について

平成 23 年 11 月 16 日に公表した通期業績予想と本日発表した通期実績数値の差異、繰延税金資産の取り崩し、および特別損失計上について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 23 年 12 月期通期連結業績予想数値と実績数値の差異 (平成 23 年 1 月 1 日 ～ 平成 23 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	9,280	△713	△582	△806	△193.02
実績数値 (B)	9,439	△460	△314	△924	△221.33
増減額 (B - A)	159	252	267	△118	—
増減率 (%)	1.7	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成22年12月期)	11,058	△24	174	41	9.94

2. 平成 23 年 12 月期個別業績予想数値の修正

(平成 23 年 1 月 1 日 ～ 平成 23 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	8,610	△670	△565	△789	△188.95
実績数値 (B)	8,778	△418	△296	△929	△222.64
増減額 (B－A)	168	251	268	△140	－
増減率 (%)	2.0	－	－	－	－
(ご参考) 前期実績 (平成22年12月期)	10,595	9	174	44	10.74

3. 差異の理由

【連結】

東日本大震災の影響からは徐々に回復基調にあったものの、欧州の財政悪化の深刻化や、それらを背景にした急激な円高の進行、また、タイの洪水の影響が拡大しはじめるなど、前回業績修正時には、国内の景気見通しもより不透明感が増しておりました。従いまして、第4四半期の業績予想は、第2・3四半期の極度の低迷を引き継いで推移するとの予想のもとに、売上高および営業利益予想を作成いたしました。しかしながら、第4四半期に入り徐々に業績が上向き、稼働率が大きく回復してきたため、また労務費の削減もあって、実績との差異が発生したものであります。第3四半期会計期間の営業利益は△2億74百万であり、第4四半期会計期間も同程度を予想し、通期予想としたものの、第4半期会計期間の営業利益実績は△16百万円となっております。経常利益に関しましては、営業外収益および費用の実績が概ね予想の通りでありました。従いまして主に営業利益の差異による差異が発生しております。また、当期純利益に関しましては、前回予想時に想定しておりませんでした関係会社株式評価損68百万円の計上、また税制改正や今後の収益の見通しを検討した結果、繰延税金資産を1億48百万円取り崩したこと等が影響したものであります。

【個別】

個別業績の売上高、営業利益、経常利益の差異理由につきましては概ね連結と同様であります。当期純利益につきましては、前回予想時に想定しておりませんでした関係会社株式評価損 95 百万円を特別損失に計上したこと、また連結と同金額の繰延税金資産の取り崩し等が影響したものであります。

(注) 本資料の業績予想等につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により予想と異なる可能性があります。

以上